

☆七夕物語☆

昔あるところに、神様の娘の織姫と若者の彦星がいました。

織姫は機織りがじょうずな働き者、彦星は牛の世話をしているしつかり者でした。やがて二人は愛し合って結婚しました。

すると今まで働き者だった二人は、朝から晩までずっと仲良く過ごして、全く働かなくなっていました。

その姿をみて、怒った神様は、二人の間に天の川を作って、離れられにしてみました。会えなくなった二人は泣き続けました。

それを見て可哀想に思った神様は、前のようにまじめに働いたら、一年に一度だけ、二人を会わせると約束しました。

二人は、心を入れ替えて一生懸命働くようになりました。

そして、二人は一年に一度だけ、七月七日に天の川を渡って会えるようになりました。

その日が七夕です。

七夕の日に雨が降ると、天の川の水が増えて渡れなくなります。

その時はカササギという鳥が羽を広げて、橋をつくってくれます。

そのおかげで、毎年、二人は会うことができるのです。

## ☆七夕(たなばた)のこと☆

日本(にほん)では機(はた)で織(お)った布(ぬの)を神様(かみさま)にお供(そな)えして、豊作(ほうさく)や厄除(やくよ)けを願(ねが)いました。

神様(かみさま)のために布(ぬの)を織(お)っていた乙女(おとめ)を「棚機(たなばた)女(つめ)」といい、織(お)り機(き)

を「棚機(たなばた)」と呼(よ)んでいました。また、布(ぬの)を捧(さ)さげる時(とき)の棚(たな)を「棚機(たなばた)」といっていました。

それで「七夕(たなばた)」と呼(よ)ばれるようになりました。

七月(しちがつ)七日(なのか)に七夕(たなばた)のお祭(まつ)りをします。八月(はちがつ)七日(なのか)にするところもあります。

笹竹(ささだけ)には、神様(かみさま)がいて、悪(わる)いものを追(お)い払(はら)う力(ちから)があります。

みんなを悪(わる)いものから守(まも)ってくれると言(い)われています。

笹(ささ)の葉(は)を飾(かざ)ると、織姫(おりひめ)と彦星(ひこぼし)の力(ちから)で飾(かざ)った人(ひと)の願(ねが)いが叶(かな)います。

七夕(たなばた)では、短冊(たんざく)に願(ねが)い事(ごと)を書

(か)いて笹竹(ささだけ)に飾(かざ)ります。

願(ねが)い事(ごと)は、何枚(なんまい)、書(か)いてもよいとされて  
います。

短冊(たんざく)とは、細長(ほそなが)く切(き)った紙(かみ)や木  
(き)のことです。

七夕(たなばた)の夜(よる)、暗(くら)くなったら空(そら)を見上  
(みあ)げて星(ほし)を探(さが)しましょう。

天(あま)の川(がわ)が見(み)えたら両端(りょうはし)に輝(かがや)  
いているのが織姫(おりひめ)星(ほし)と彦星(ひこぼし)です。

カササギ星(ほし)が近(ちか)くに見(み)えます。夏(なつ)の大三角  
(だいさんかく)と呼(よ)ばれている星座(せいざ)です。

☆七夕(たなばた)のクイズ☆

(答(こた)えのと

ころに○をしてね)

1 織姫(おりひめ)と彦星(ひこぼし)が年(ねん)に一度(いちど)しか会(あ)えないのはなぜですか

- a 神様(かみさま)にいたずらをしたから
- b 天(あま)の川(がわ)で泳(およ)いだから
- c 仕事(しごと)をさぼっていたから

2 一年(いちねん)に一度(いちど)、織姫(おりひめ)と彦星(ひこぼし)が会(あ)えるのはいつですか

- a 7(しち)月(がつ)1(つい)日(たち)
- b 7(しち)月(がつ)7(なの)日(か)
- c 8(はち)月(がつ)11(じゅういち)日(にち)

3 彦星(ひこぼし)が育(そだ)てていた動物(どうぶつ)はなんですか

- a 猫(ねこ)
- b 牛(うし)
- c パンダ

4 なぜ笹飾(ささかざ)りに笹竹(ささだけ)を使(つか)うようになったのですか

- a 笹竹(ささだけ)はいっぱい生(は)えていて、困(こま)らな

かったから

b 笹竹(ささだけ)は悪(わる)いものを追(お)い払(はら)う力(ちから)があるから

c パンダがいる中国(ちゅうごく)で生(う)まれたお祭(まつ)りだから

5 短冊(たんざく)に願(ねが)い事(ごと)を書(か)く時(とき)に正(ただ)しいのはどれですか

a 手(て)をパンパンと叩(たた)いてから願(ねが)い事(ごと)を書(か)く

b 願(ねが)い事(ごと)は鉛筆(えんぴつ)で書(か)いてはいけない

c 一人(ひとり)で何枚(なんまい)、願(ねが)い事(ごと)を書(か)いてもよい